

平成31年度 基本施策評価シート (部別)

基本目標	安全・安心で快適なまち
基本方針	住みやすさを感じるまち
基本施策名	秩序あるまちづくりの推進

	所属	職名	氏名
作成者	都市計画課	課長	横山 佳久
評価者	都市建設部	部長	坪田 浩昭

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	都市計画審議会等を開催し、課題の克服に向けた検討を行いました。 都市計画に関する市民アンケートを実施し、都市計画マスタープラン改定に向けた課題等を整理しました。 自転車を活用したまちづくりに資するため、「サイクリングロードサインガイドライン」(案)を策定しました。 都市計画道路整備については、平成27年4月に策定した道路整備推進計画に基づいて、豊科地域の「吉野線」整備に着手しており、本年度は本吉町交差点から豊科高校体育館まで(L=246m)を整備しました。また、用地補償を継続して進めています。 市街地の浸水対策・住環境整備のため、都市下水道及び市街地排水路の整備を行いました。
基本方針 (目指すべき方向性)	計画的な土地利用を促し、暮らしやすさと産業発展のバランスが取れた持続可能なまちづくりを進めます。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H29	H30	H31	達成率	進捗状況	所管課
都市計画道路整備率	%		35.4		35.4	35.4	100	順調	都市計画課

施策指標の進捗状況と分析	都市計画道路の整備率は令和元年度末に35.4%となっています。「吉野線」については道路改良工事と用地補償を進めており、整備継続中です。 限られた財源の中、国の社会資本整備総合交付金を活用しながら進めています。
--------------	---

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位:円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況					重点化	
				H29	H30	H31	R 2	R 3	合計	事業区分	新/継	終期	方向性		正規職員数
1	0108380	都市計画総務費	計画係	195,990,361	213,294,043	179,622,468			588,906,872	義務業務		期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	1.68	
2	0108390	土地利用制度	計画係	334,992	301,054	8,775,720	7,077,000	436,000	16,924,766	政策的業務	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	1.68	
3	0108392	情報案内板整備	計画係		20,088,000	2,816,000	15,253,000	19,827,000	57,984,000	ハード(新規)	継続	平成31	現状のまま事業を実施することが適当	0.3	○
4	0108460	街路整備事業(交付金)	都市整備係	88,016,665	97,950,999	182,471,490	130,951,000	130,951,000	630,341,154	ハード(継続)	継続	令和3	現状のまま事業を実施することが適当	1.05	○
5	0108530	都市下水道維持管理費(市単独)	都市整備係	8,197,758	1,768,750	3,387,729			13,354,237	ハード(継続)	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	0.1	
6	0108540	市街地排水路改修事業(市単独)	都市整備係	8,408,016	8,373,456	9,434,410			26,215,882	ハード(継続)	継続	期限なし	現状のまま事業を実施することが適当	0.15	
合計				300,947,792	341,776,302	386,507,817	153,281,000	151,214,000	1,333,726,911						

事務事業量とコスト(費用対効果)の分析	人口減少、少子高齢化時代を迎え、持続可能な安曇野市のためにコンパクトで利便性の高いまちづくりを進めています。 土地利用については、アルプスの麓に広がる田園風景という「安曇野らしさ」を保持しながら土地利用条例を運用しています。 情報案内板整備により市内各施設への案内不足を解消しています。 都市計画道路「吉野線」については、歩車道及び交差点の改良により、歩行者の安全性や渋滞解消が図られています。 都市下水道・市街地排水路整備により、住環境の整備を行っています。
重点化事務事業の考え方	情報案内板整備は、平成30年度に策定した「安曇野市公共サインガイドライン」に則って、観光地と公共施設のサインを安曇野にふさわしいスマートな公共サインに統一的に整備する事で、観光客にとっては旅行が一層楽しく、市民にとっては暮らしが一層円滑になるほか、国内外を含む観光客の増加と都市景観の質的向上が図られ、また、市の一体感の醸成に寄与することが出来ます。このため、特定財源の活用を図りながら、全市における整備を進めます。 街路整備事業は、都市の交通の円滑化と歩道整備により歩行者の安全確保が図られます。このため、交付金を活用しながら早期の整備を図ります。
縮減・廃止事務事業の考え方	
総合評価(次年度へ向けた課題の抽出含)	厳しい財政事情を踏まえ、特定財源を確保しながら計画的かつ継続的に事業を進める必要があります。

平成31年度 基本施策評価シート (部別)

基本目標	安全・安心で快適なまち
基本方針	住みやすさを感じるまち
基本施策名	良質な住環境の整備

	所属	職名	氏名
作成者	都市計画課	課長	横山 佳久
評価者	都市建設部	部長	坪田 浩昭

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	平成25年度に策定した公園施設長寿命化計画が5年を経過した事から、平成30年度に見直しを実施しました。国の交付金を活用しながら、長寿命化計画に基づき公園施設の更新、修繕、補修工事を実施しています。令和元年度は、豊科南部総合公園外3公園の施設更新工事を実施しました。また、都市再生整備計画事業により、龍門淵公園・あやめ公園のトイレ改修工事を実施しました。
基本方針 (目指すべき方向性)	公営住宅や公園の整備、住宅の耐震化に取り組むとともに、公共施設や住宅地の緑化を推進し、良質な住環境の形成を図ります。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H29	H30	H31	達成率	進捗状況	所管課
耐震診断戸数	戸(累計)	534	1,094		992	1,020	93.2	予定以上	建築住宅課
耐震改修戸数	戸(累計)	102	192		146	166	86.5	順調	建築住宅課

施策指標の進捗状況と分析	
--------------	--

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位:円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費					事務事業の状況					重点化	
				H29	H30	H31	R 2	R 3	合計	事業区分	新/継	終期	方向性		正規職員数
1	0108480	都市公園管理事業	公園緑地係	89,552,190	73,856,135	56,350,696			219,759,021	施設の管理運営	継続	期限なし	現状のまま実施することが適切	2.42	
2	0108490	その他公園管理事業	公園緑地係	13,039,245	15,260,769	15,683,597			43,983,611	施設の管理運営	継続	期限なし	現状のまま実施することが適切	0.83	
3	0108500	公園施設長寿命化事業	公園緑地係	80,172,733	75,471,625	76,780,511	82,731,000	89,214,000	404,369,869	ハード(継続)	継続	期限なし	現状のまま実施することが適切	1.75	○
合計				182,764,168	164,588,529	148,814,804	82,731,000	89,214,000	668,112,501						

事務事業量とコスト (費用対効果)の分析	更新により公園施設の安全性が向上しています。修繕については、施設の長寿命化が行われ、管理、ライフサイクルコストの縮減が図られています。公園利用者が安全かつ安心して利用できるよう管理を行っています。
重点化事務事業の考え方	各公園を整備した時期が集中しているため、施設が一斉に老朽化している状況で、対象をすべて更新する事は多額の財源を必要とします。したがって、公園施設長寿命化計画に基づき、交付金を活用しながら計画的に更新、修繕することで長寿命化を図り、負担の平準化と安全確保を図ることは、大きな効果があります。
縮減・廃止事務事業の考え方	
総合評価 (次年度へ向けた課題の抽出含)	安全な公園利用、財源の平準化のため、引き続き計画に沿った整備が必要です。財源に交付金を充てていますが、内示率が低いため、(令和元年度35%)計画の進捗に課題があります。

平成31年度 基本施策評価シート (部別)

基本目標	安全・安心で快適なまち
基本方針	利便性の高いまち
基本施策名	公共交通の充実

	所属	職名	氏名
作成者	都市計画課	課長	横山 佳久
評価者	都市建設部	部長	坪田 浩昭

1 基本施策に対する基本姿勢

現状	<p>国道19号明科駅前歩道整備事業に合わせた明科駅周辺整備事業を都市再生整備計画事業により、平成30年度から令和4年度までの5カ年計画で進めています。</p> <p>「安曇野市立地適正化計画」のまちづくり方針1「人口減少下において各地域の核となる5つの中心拠点（拠点市街）の確保」の3つの項目の内、高度な都市機能の利用環境の確保を掲げていて、5つの中心拠点が相互に連携するよう拠点間のアクセス確保と市内2路線の鉄道を維持・活用し、松本都市圏へもアクセスできる環境を確保するとしています。</p> <p>また、「目指すべき都市の骨格構造」として、5つの中心拠点及び既存市街地・集落と中心拠点を結ぶ公共交通があり、美しい景観・田園環境が保全された、多極ネットワーク型の都市構造を目指す。としています。</p> <p>明科駅周辺を整備し、安曇野市の東の玄関口として、観光客はもとより、市民、北安曇郡及び東筑摩郡を含めた、通勤、通学客や、ビジネスでの関東・中京方面への鉄道利用者の利便性向上を目指します。</p>
基本方針 (目指すべき方向性)	公共交通網の整備を進め、便利で持続可能な公共交通の環境が整っているまちを目指します。

2 施策指標

指標	単位	(設定時)	目標値	H29	H30	H31	達成率	進捗状況	所管課
「あづみん（デマンド交通）」の利用者数	人	85,365	88,000		86,273	86,681	98.5	順調	政策経営課

施策指標の進捗状況と分析	
--------------	--

3 基本施策を構成する事務事業の評価

(単位：円)

No	コード	事務事業名	所管課	事業費						事務事業の状況					重点化
				H29	H30	H31	R 2	R 3	合計	事業区分	新/継	終期	方向性	正規職員数	
1	0108472	都市再生整備計画事業(明科駅周辺)	都市整備係		58,551,120	205,634,389	377,494,000	480,229,000	1,121,908,509	ハード(新規)	継続	令和4	現状のまま事業を実施することが適当	2	○
		合計			58,551,120	205,634,389	377,494,000	480,229,000	1,121,908,509						

事務事業量とコスト(費用対効果)の分析	人口減少、少子高齢化時代を迎え、持続可能な安曇野市を構築していくため、コンパクトで利便性の高いまちづくりを進めています。都市再生整備計画事業は、駅を中心とした利便性の高いコンパクトなまちづくりの構築を進めています。
重点化事務事業の考え方	国道19号明科駅前歩道整備事業の進捗と合わせた進捗管理が必要です。
縮減・廃止事務事業の考え方	
総合評価(次年度へ向けた課題の抽出含)	都市再生整備計画事業への交付金の内示率増嵩の活動を進めます。国道事務所との連携を密にします。地元や利用者の意見を踏まえて計画を進めます。